

2023/02/15

悲しさを超えて

6年C組 山本 妃明里

聖書：ローマの信徒への手紙 5章3節-4節（新約聖書 279頁）

このような大切な礼拝の場でお話する機会を頂けたこと心から嬉しく思います。  
これからの学校生活で、ここにいる一人一人が少しでも自分らしく生きることができるよう、

私が大きく変わったきっかけである生徒会選挙の話をしてします。

私は中学生の生徒会役員選挙で当選することができず生徒会になることができませんでした。その日の苦しかったことを私は今でも昨日のように思い出せます。私は自分が生徒会にふさわしかったとは思っていません。私が他の人より劣っている、だから生徒会になれなかったということは理解しています。結果に対して何か不満があるわけではありません。

ただ協力してくれた友達を裏切るような結果になってしまったこと、選挙期間の努力が無駄になってしまったこと。何よりこれから周りの人々に「生徒会になれなかったかわいそうな子」だと思われること「生徒会に落ちたような人間がこの先上手くやっっていけるはずがない」と思われることが私を惨めな気持ちにさせました。

私はその日の夜どうしたらこの苦しみから抜け出せるかを考えていました。いつそのこと思い切り可哀想なふりをして不幸そうに生きていこうと思いました。しかし長いこと考えた末、私はこう思いました。私は私をみじめだなんて思いたくない。みんなが私を何もできないと、情けないと思っても私だけは私をそう思わないようにしましょう。誰にどう思われても私が行きたいように生きよう。そう思いました。

この前見た映画でとても印象に残っている言葉があります。

私が我が運命の支配者

私が我が魂の指揮官

この言葉を聞いた時私は中学生の時の自分を思い出しました。あの時の私は本当の意味で自分の運命を支配できたのだと思います。

私たちは辛く苦しい出来事の中で神様は本当にいるのかと感ずることがあると思います。私のように自分の今までよくなかった行動がそのまま辛い結果に繋がったような苦しみではなく、本当に理不尽でどうして自分だけが、と思う不幸を感じたことがある人もいます。

そのような人がここにも、世界のどこかにもいて、毎日悲しいニュースがテレビから流れると神様は私たちを愛してなんかなくて、見捨ててしまったのではないかと感ずります。だけど、私は、神様の愛は私たちを幸せにすることではなく、私たちがどんな苦しい出来事でもそれを自由に考えることができる、私たちの「考える」という行動こそが全てを奪われても

なお私たちに残されているものであり、苦しかった出来事を幸せにすることが可能である、神様が私たちに与えてくれた愛の証なのだと思います。私たちは辛い出来事が起きた時、それをどんなふうに捉えてもいいのです。私をさらに幸せにしてくれる存在のように捉えても、成長するための試練だと思ってもいい、神様を信じられなくても、それでもいいのだと思います。逆に神様がいつも私と共にいてくださるのだから、自信を持って自分らしく生きようと信じてもいいのです。生きていながら生きていて本当によかったと思うことが時々あると思います。生きることはとても苦しいことの連続です、それを生きていてよかったと思えたものを、誰かに否定させないでください。自分の思いを捨てないでください。私だけが私の運命を支配できる権利があるのです。私だけが私の魂の指揮官になれるのです。

ここにいる全ての人が、悲しい出来事は終わりではなく、ただの通過点であるということ。だから私たちにはその悲しみの終わりを、悲しみで終わらせない力があるのだということ。をどんな出来事も自由に考える力があるのだということ。を忘れないでほしいです。私は本当に心から絶望したことは無いと思います、まだそんなにたくさんの経験もしていません。そんな私からの言葉をととても薄っぺらくなんの救いにもならない、むしろ不快だと思う人もいます、そのような人は私の言葉なんかに傷つかないでください。私の今日の話はどう思うのかもここにいる人全員は自由です。(青山学院大学教育人間科学部教育学科 入学予定)